

環境保全、低炭素社会への取り組み 市が電気自動車（EV）3台導入

市は3月15日、電気自動車活用事業としてガソリンを使用しない電気自動車（EV）3台を導入しました。この事業は地球温暖化防止に係る普及啓発を目的にしたもので、国や社次世代自動車振興センターの補助事業を活用しています。

電気自動車は4人乗りの軽自動車で急速充電の場合は30分で約80%充電、家庭充電100ボルトの場合は14時間で満充電となり、走行距離は80km程度です。

市では平成23年度に市役所、焼山地区、休屋地区の3カ所に充電器の設置を予定しています。



導入した電気自動車

安全・安心な地域社会づくりのために 十和田警察署と市が協定を締結

3月9日、市役所で十和田警察署と市との「安全・安心情報の交換等に関する協定」締結の調印式が行われました。この協定は、市民が安全で安心して暮らせる地域社会づくりのために、情報の共有や、防犯、交通安全、防災活動などを連携していくものです。

協定締結後、十和田警察署の盛田正一署長は、「市と連携し、いち早く安全・安心情報の発信に努めたい」と話していました。今後、市は十和田警察署からの情報を安全・安心情報メール「駒らん情報めーる」を通して配信していくことにしています。



協定書に署名する盛田署長と小山田市長

子どもたちに生演奏の音色を伝えたい ゼルコバアンサンブルがコンサート

3月5日、市民文化センターでゼルコバアンサンブルコンサートが開催されました。ゼルコバアンサンブルは小・中学校を訪問し、子どもたちに生演奏の素晴らしさや楽器に触れる機会を与えようとチェロの高橋幸男さん、ヴァイオリンの石川泉さん、フルートの藤原つや子さん、ピアノの今田文子さんの4人で結成されています。

今回のコンサートは、これまで活動を支えてくれたかたがたに感謝を込めて開催されたもので、約120人の市民が生演奏を楽しみました。



息の合った合奏や独奏を披露したゼルコバアンサンブル

大規模な災害発生時にご近所の助けが必要 自主防災組織について学び災害に備える

3月4日、東一番町の初田会館で自主防災組織について学ぶふるさと出前きらめき講座が開催されました。

この講座は市職員が講師となり、市民の集まる場所に出向いてお話しするものです。今回は東一番町町内会（大竹正美会長）の呼びかけで富地、九・十丁目、駅通り町内会の会員など50人が受講しました。

講座では、大地震などの災害時は公的支援が制限され、住民の救出に時間を要するため、近所や地域で助け合う自主防災組織の重要性などを説明すると、受講者は熱心に耳を傾けていました。



災害発生時の役割や避難場所を確認する受講者